

Consecutive Interpreting: A Short Course (Translation Practices Explained)

1st Edition

著者 Andrew Gillies

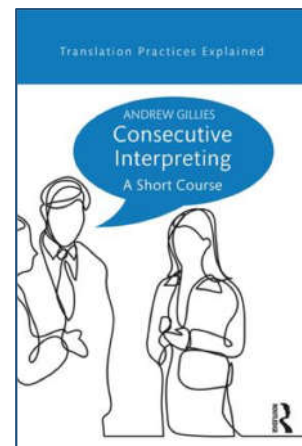
出版社 Routledge

出版年 2019 年

頁数 259 ページ

ISBN 978-1-138-12324-3 (pbk)

評者: 鶴田知佳子



本評者は、すでにこの著者によるノートテイクの別の著書について、書評を掲載している。それは *Note-Taking for Consecutive Interpreting: A Short Course (2nd Edition)* として、2017 年に Routledge から出版された本で、ギリーズ氏はその著書でスピーチ理解に一章をあてている。通訳の行為は、スピーチがどうなされるのか理解があつてこそ、成功裏に達成できるという考えが根底に示されている。今回の逐次通訳についての包括的な本においても、同じくパブリックスピーキングの重要性がまず示されており、通訳者はすぐれたパブリックスピーキング能力が求められるとの著者の主張が、まずいちばん最初に提示される。その点が、従来から出版されてきている逐次通訳の本との最大の差別化の点でもある。

この本は二部構成になっていて、第一部は逐次通訳の基本を、手順を追って説明し、第二部は実践に結びつける応用編になっている。第二部の応用編では現場で仕事を行うのにすぐに適用できる助言がされていて、現場の一部で導入されているノートテイクの自動的な音声再生・書き起こしを行う *digitally assisted* の方法にもふれている。

本書では著者自身の 20 年以上の通訳者としての経験と、同じくらいの期間通訳教育に携わってきた経験が十分に生かされている。わかりやすいようにおそらくは著者自身がモデルになっていると思われるイラストが挿入されている。著者は国際会議通訳者協会の *Training Committee* で指導的な立場の一人でもあり、*Training of Trainers* として AICC のセミナーで通訳教育担当者に対し逐次通訳のトレーニングコースを行ったときにも、まずプレゼンテーションについての訓練から始めていた。さらに、ギリーズ氏は今までに出版されている通訳教育についての知見を各章の末尾で参照しているが、ギリーズ氏らしいところは、プレゼンテーションについてのこだわりである。各章で練習問題が提示されているのも、本書の魅力である。

第一部は、逐次通訳がどのようなものかの説明をする第 1 章の序論から始まり、次にプレゼンテー

ションの技法について、第2章でプレゼンテーションの姿勢を自身のモデルイラストを交えて分かりやすく説明している。第3章では、ヨーロッパではかなり時間をかけて教えるメモなしの逐次の解説をしているが、記憶をするときにストーリーを描くように行うやりかたを具体的に説明しているのがわかりやすい。第4章はスピーチの分析的な聴き方について、第5章は具体的な案件を引き受けたときの準備の仕方と教育者の視点からのフィードバックの仕方について、第6章がノートテキングについてである。第7章から第9章は、ノートテキングを補完する内容である。初心者ほど書きすぎてしまうノートを少なく書くコツを述べたのが第7章、頭のなかで情報を整理して訳出につなげる「再構成」をどう行うのかを述べているのが第8章、第9章では、ダニエル・ジルの提唱する努力モデルに基づいて、逐次通訳におけるエフォートマネジメントについて述べている。

第二部の応用編は、第10章がプレゼンテーションでさらに通訳とスピーキングの違いを指摘する。ここでも本人がモデルとなっていると思われるイラストが載っている。第11章ではスピーチのストラクチャーマップを提示、第12章では通訳案件の中身についての準備の仕方、第13章がプロトコールと実務、第14章が前述の *digitally assisted* の技術について述べている。特に興味深いのが第13章のプロトコールと実務で、通訳業務のときの適切な服装・振る舞いについての注意が述べられている。第13章の冒頭で、次のことばが提示される。

An interpreter can be forgiven anything, except being late and not being dressed appropriately.
(Ouvrard 2014: 111)(注)

通訳者は、遅刻をするのと適切な服装をしていない以外はどんなことでも許される。
(評者訳)

女性の服装については男性である自身は詳しくはないとの断り書きつきながら、「あまりに明るすぎる色、短すぎるスカートや露出が多すぎるトップスは避けるように」とある。ほかにも、「水は頻繁に飲むように、ただし、あまり飲みすぎてトイレに行きたくならないように」などと注意が細かく、このあたりはまだ現役通訳者を続けている人ならではの。ちなみにギリーズ氏は、*Interpreter Training Resources* という独自のサイトを長年運営している。

全般的に、通訳を勉強中の人にも、通訳教育を担当している人にも参考になる本であるが、一つ難点は本書がある程度実務経験がある人に向く内容のため、入門のための教科書としては使いづらいこと、ウェブサイトとして参考に挙がっているものも難易度が高いことである。また、練習用としてあげられている問題はかなり内容が難しいため、例えば大学の学部で使うには無理がある。しかし、ギリーズ氏が長年の経験に基づき、2019年の今の時点で逐次通訳の実践の現状にかんがみ整理した逐次通訳の手引書として、おおいに価値がありお奨めできる一冊である。

【注】

ギリーズ氏の下記ウェブサイトの英語版からの引用

Ouvrard, G. (2014) Les principaux aspects pratiques de la mission d'interprétation consecutive officielle, *Traduire Online*. Available:

<http://traduire.revues.org/639>

参照日時 (accessed 6 November 2017, 108-124.)

.....
【評者紹介】

鶴田知佳子 (Tsuruta Chikako) 会議通訳者、放送通訳者。日本通訳翻訳学会、国際会議通訳者協会会員。東京外国語大学名誉教授、東京女子大学現代教養学部国際英語学科教授。通訳実践の現場と通訳教育および研究に携わっている。

